

ゼカリヤ書14章9節 「来るべき王」

1A 「その日」

1B 主の定められた日

2B 救いを完成される日

2A 地のすべての王

1B 突き刺された方

2B 全て膝、全ての舌

3A 一つの名

1B 二つの王国

2B 反逆

1C 天使において

2C 人間の罪において

3C 世界において

4C 肉において

3B すべてを一つにされる神

本文

ゼカリヤ書 14 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びは、ゼカリヤ書 11 章まで来ました。今夜、12 章から 14 章までを一節ずつ見て行きます。今朝は、14 章 9 節に注目してください。「**主は地のすべての王となられる。その日には、主はただひとり、御名もただ一つとなる。**」私たちは、ゼカリヤ書において、とても心躍る箇所を読みます。それは、私たちの主イエス・キリストが再び戻って来られて、この地上において、すべての王となられることです。すべてのものがキリストの下に一つに集められて、神の支配される国を立てられます。イエス様が弟子たちに、「御国が来ますように。みこころが天に行われるように地でも行われますように。(マタイ 6:10)」と祈りなさいと言われました。

しかし私たちは前回、そしてクリスマス礼拝において、キリストは来られたけれども、その支配を人々が拒んだことを知りました。ゼカリヤが羊飼いを演じたのを覚えているでしょうか？他の、羊を飼わない羊飼いと対峙して、それで慈愛という杖を折りました。そして、銀貨 30 シェケルの賃金を支払ってもらうという話も出てきます。そうです、イエス様のお姿です。イエス様がまことの羊飼い、イスラエルの民の指導者として現れたのですが、当時のユダヤ人指導者がそれを拒み、イスカリオテのユダに金を渡して、裏切らせたのです。

このことについて、イエス様はたとえ話で、「この人に、私たちの王になってもらいたくありません

ん。」と国民が言う、と、言われています(ルカ 19:14)。イエス様に自分たちを治めてもらいたくない、ということです。そして、イエス様をローマ総督ピラトに引き渡したとき、ピラトは、「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか。」と言ったら、祭司長たちが、「カイザルのほかに、私たちは王はありません。」と答えました(ヨハネ 19:15)。これは、ユダヤ人のことです。けれども異邦人であっても、「この方はもともとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。(ヨハネ 1:10)」という言葉があります。あまりにも滑稽であります、自分を造られた方を知っていない、これは意図的に知らないということです、知ろうとしません。ですから、「私たちの王にならないでくれ」という叫びと同じであると言えるでしょう。私たちは未だ、イエスが王になっていただくことを拒んでいる時代に生きているのです。

1A 「その日」

しかし、「その日」は来ます。キリストがすべての王となられる時が来ます。「**その日には**」という言葉があります。12章から14章には、何度となく、この表現が出てきます。12章9-10節、ユダヤ人がついに、主の再臨の姿から、この方がイエスであることを知る瞬間です。「その日、わたしは、エルサレムに攻めて来るすべての国々を捜して滅ぼそう。わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く。」主が、かつて自分の先祖が突き刺した方、イエスであることを知り、激しく悔い改めます。それで、ついに、ユダヤ人たちの間に清めが起こります。「13:1 **その日**、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。」ついに、その日がやって来ます。御霊の注ぎによって、清められて、新たな霊にされるその日が。

そして、主が地上に戻って来られる瞬間も、「その日」と呼ばれています。「14:4 **その日**、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る。」主がついに、戻ってきてくださいます。イエス様が天に昇られた後に、「**・・・イエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見た時と同じ有様で、またおいでになります。(使徒 1:11)**」と言われたように、同じ有様で、同じオリーブ山に降りてこられます。その時、雌ろばの子に乗ってではなく、オリーブ山に立つことによって、真ん中で二つに裂け、大きな谷ができて、その間をエルサレムにいたユダヤ人たちが走って行って、逃げます。そしてそこから、攻めてきた諸国の軍隊をことごとく滅ぼされます。その日がやってくるのです。

1B 主の定められた日

「その日に」という言葉には、「**終わりの日に**」ということです。そこには、二つの意味合いがあります。一つは、「主が定めておられる日なのだ」ということです。主がハバククに言われました。「この幻は、なお、定めのためである。それは終わりについて告げ、まやかしを言ってはいいない。」

もしおそくなくても、それを待て。それは必ず来る。遅れることはない。(2:3)」弟子たちも、イエス様が復活されて、「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。(使徒 1:6)」と尋ねましたが、イエス様は、「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。(1:7)」と答えられました。私たちには知らされていないことが、たくさんあります。そして状況はますます、自分にとってつらいことが起こるかもしれません。しかし、主の定めておられる日が来るのだ、そしてそれは近づいているのだと信じることができます。

2B 救いを完成される日

そして、「その日に」とは、主がご自分の救いのご計画を完成される時なのだという意味合いがあります。主が、全地においてすべての王になられるのです。そして、イスラエルがみな、ついに救われる日が来るのです。恵みと哀願の御霊が彼らに注がれます。そして、すべての民がエルサレムに来て、主を礼拝する時でもあります。私たちは今、呻いています。その日が来るまで、見張り人として、シオンのために黙ってはいないと主が言われたように、その日が来るまで、しっかりと証しを立てる、主のことばを語り伝えるのです。それは、主が必ず、良くして下さる。すべてを正して下さることを信じられているからです。

使徒パウロは、今の時を知りなさいと言いました。「ローマ 13:11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。」救いの日が近づいているという期待です。使徒ペテロは、自分は栄光の主の姿を見たが、もっと確かな預言の言葉があるとと言いました。「2ペテロ 1:19 また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。」今は、暗き世であるかもしれない。けれども、夜明けが必ず来る。明けの明星が必ず上ります。

2A 地のすべての王

1B 突き刺された方

そして、「**主は地のすべての王**」となるという言葉です。今は、すべての王になっていません。すべてのものがイエスに従っているわけではありません。本当は、すべての王であるはずなのですが、それを知らずにいます。この世の知恵によって、人はイエスが主であることを知ることはできないことを、パウロはコリント第一 1 章で話しました。どんな知恵をもってしても、決して神の知識には至らないことを話しました。「1コリント 2:8 この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして悟りませんでした。もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。」そして、大きな悲劇は、ご自分の民のために来られたのに、ご自分の民はこの方を突き刺したということです。先に読んだ 12 章 10 節です。私たちは今も、主を拒む時代に生きています。「私たちは神からの

者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。(1ヨハネ 5:19)」と使徒ヨハネは言いました。今の時代、神によって生まれる人、主の御霊によって生まれる人がいますが、全世界はキリストを未だに十字架に付けてしまっているような状態です。

2B 全て膝、全ての舌

しかし、すべての人が主を告白する時が来ます。「ピリピ 2:10-11 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」黙示録においても、天に住む者たちは、主がすべての者たちの王となることを叫びました。「11:15 第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」」全ての人、イエスが主であり、この方が王であると告白する時が来ます。

主が、すべての王になられると、世界はどうなるのでしょうか？そこには、正義と平和が満ちます。「イザヤ 9:6-7 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」私たちは、義に飢え渴いていますね。あるべき真っ直ぐな姿が捻じ曲げられています。そのために、争いや対立も起こります。しかし、全ての国が主の教えを学ぶので、戦争することをやめます。「2:4 主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」動物界にさえ、争いがなくなります。「11:6-9 狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、小さい子どもがこれを追っていく。雌牛と熊とは共に草を食べ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわらを食う。乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの子に手を伸べる。わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。主を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。」

荒野はエデンの園のように豊かな緑地になります。「51:3 まことに主はシオンを慰め、そのすべての廃墟を慰めて、その荒野をエデンのようにし、その砂漠を主の園のようにする。そこには楽しみと喜び、感謝と歌声とがある。」寿命も延びます。「65:20 そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命の満ちない老人もない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。」そこには、病もなくなります。「33:24 そこに住む者は、だれも「私は病気だ。」とは言わず、そこに住む民の罪は赦される。」他にも、祝福と至福に満ちた世界を神は約束しておられます。なぜなら、主がすべての王となられるからです。世は、キリストが唯一の主であるというから、宗教戦争が絶え間なく起こっているのだとします。いいえ、キリストが唯一の主で

あるとしていないから、すべてのものが主に従っていないから、争いが絶えないのです。

3A 一つの名

そしてゼカリヤは、「**主はただひとり、御名もただ一つとなる。**」と言いました。御名が一つになるというのは、世界において救いを与える名、人々を治める名が一つになるということです。もし、一つところに二つの名があったらどうなるでしょうか？例えば、お隣の国、韓国は朝鮮半島の中にあります。半島が分断されています。大韓民国で、地図を開くと、中国との国境、豆満江までが大韓民国になっています。おそらく、北朝鮮、朝鮮民主主義人民共和国が発行している地図には、釜山までが朝鮮であるとしているでしょう。一つの領域に二つの名、二つの政権があるためです。実は二つの国があるのではなく、二つの政権が一つの半島の支配のために戦っているのです。

1B 二つの王国

そしてそれが、全世界的に、宇宙的に起こっていると言えるでしょう。神の支配する王国があるのに、それに反抗する暗闇の王国があるということです。福音とは、その暗闇の圧政から、愛する御子の支配に移されることを意味します(コロサイ 1:13)。

2B 反逆

初めは、すべて良かったのです。主が天と地を造られ、その造られた一つ一つに名前を付け、そしてそれをよしとされました。人を造られ、すべてを造られたので、「非常に良かった」と言われています。そこには神の王国だけしかありませんでした。

1C 天使において

けれども、そこで蛇がやって来ました。悪魔です、悪魔はエゼキエル書 28 章においてケルブ、イザヤ 14 章において明けの明星として出てきますが、自分の美しさと栄光にうぬぼれて、いと高き方のようになれると思いがりました。それで墮落して、自分のほうに天使どもを引き寄せ、それでサタン王国を造ってしまったのです。その時から、主の名が一つではなくなっていました。

2C 人間の罪において

そして、人を神が造られ、そこには神と交わっている、一つとされ、結ばれているその平和と秩序に、蛇がやってきました。それで、人は罪を犯しました。その時から、人もまた主の名ではなく、自分の名、自分の支配を選び取りました。神の国ではなく、自分の国を選び取ったのです。そうやって、神に反逆し、反抗しています。人は、神の国とその義を第一にするのではなく、食べること、何を着るか、どこに住むかなど、自分のいのちのことだけに思いが行くようになりました。

3C 世界において

そして、土地が呪われたものとなりました。世界が、被造物が神の支配に従っていません。天災

が起こります、動物界では弱肉強食があります。

4C 肉において

しかし、主はご自分の流された血潮によって、私たちを罪から救い出してくださいました。そしてこの曲がった世、曲がった時代から救い出してくださいました。しかし、私たちはまだ呻いています。この贖われていない体の中にいるので、呻いています。それで霊と肉が対立しており、自分の願っていること、主の御心を行なおうとしているのにそれができていないという、肉の問題があるのです。「ガラテヤ 5:17 なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。」肉は、自分こそが王になり、自分の名が挙げられるように強く求めます、貪ります。しかし、御霊は私たちがキリストを王とし、キリストの御名があがめられるように求めます。御霊に導かれることによって、肉の行ないを殺すことができます。

3B すべてを一つにされる神

ですから、悪魔が滅ぼされること。世界の軍隊が滅ぼされること。そして私たちの罪が滅ぼされる事、そして肉も新しい体に変えられて、主に似た者にされること、こうして、すべてを主は一つにしてくださいます。そしてキリストこそが主であり、王であるという日が、近づいているのです。

だれが今、主になっているでしょうか？ イエス様は、神と富のどちらも主人にすることはできないと言われました。絶えず、神以外のものを王にしようとする強い力を私たちは受けています。けれども、神に従いなさい、悪魔に立ち向かいなさいとヤコブが言ったように、神を王とすることによって、これらの誘惑を退けることができます。